（５）「思索と表現」の評価と検証について

本校では，総合的な学習の時間「思索と表現」における探究学習を文章にまとめる論文指導を実施してきた。対象は３年生であり，２年生と３年生が縦割りで構成する協同的探究学習により研究した成果を，論文の形で表現させている。なお，２年生には，グループ学習の成果をポスターにまとめる取組を実施しており，段階的に探究学習の力を育成することをねらいにしている。昨年度，文部科学省によるＳＧＨ中間成果においては，課題研究の成果を評価する仕組みや指標の確立，成果の検証の視点からの工夫改善が求められた。継続第４年次には，この視点から，①論文の成果を評価する仕組みの改善，②論文に最低限の水準を設けること，③ポスターに最低限の水準を設けること，④課題研究の成果の検証の４点について工夫改善と検証を行った。

①と②については，論文の成果を評価するため，論文評価ルーブリックを作成し 39 本の優秀作品を対象にした評価を実施した。また，②については，論文のフォーマットの改善を行い，旧型フォーマットでは表題と氏名のみであった表紙を，表題，英文タイトル，英文要旨，キーワード，英文キーワード，氏名，英文氏名の表紙フォーマットに切り替えた。また，本文には章立てや章の構成を具体的に示し，論文の体裁に関する最低基準を示した。その結果，別表のとおり，ルーブリックの最低限の水準をクリアするものが大半を占め，最低限の研究成果の保障を担保する結果が得られた。継続第５年次は，評価対象外の論文を含めて一定の水準をクリアできるよう，生徒と指導教員に受理基準を示し，提出される論文の基準を超えるよう指導した。

継続４年次に課題にあがったのは，研究表題と参考文献の示し方である。研究表題は，「研究内容を必要十分に要約した題目」であり，学術的研究に相応しい表題とするよう指導した。その結果，Ａを満たす論文が 21.1%（2018 年度）から 64.5%（2019 年度）に変化し，Ｃとされた論文は皆無であった。指導の結果として，学術的研究に相応しい表題と内容を有する割合が増加したといえる。また，参考文献の示し方についても，94.7%と圧倒的にＢ評価であった 2018 年度に比して，Ａ48.4%，Ｂ51.6%と適切に表現された割合が増加した。この項目はＡが 100%にすることが望ましいものであり、今後も継続した指導が望まれる。

一方で、昨年度も指摘したが、先行研究の踏まえ方が甘いものが多く散見される。さらに、論文の水準を挙げるためには、取組の仕方を変更する必要があった。課題の原因として、２・３年生が縦割りで実施する研究であり、教員が提示する中テーマに沿う研究を選択せざるを得ない状況がある。2019 年度の２年生には、後期の取組から変更するようにした。一つは、個人研究を開始し、自分の課題意識から研究を始めることであり、もう一つは先行研究について半期をかけて洗っていくことである。

発表ポスターに関する最低限の水準については，ポスター見本を示し，学術大会における発表ポスターに匹敵する水準のポスター作成を目指した。しかし，今年度もストーリーの分かりやすさや伝え方の問題から，プレゼンテーションスライドを張り付ける型のポスターが大半を占めた。ポスターセッションが中間発表的な性格を持っている以上，この段階でのポスターはスライド型であっても致し方ない。この発展型のポスターを作成する生徒もあり，実際に学術大会での発表に繋がるものもあったことは，一定の評価が与えられる。

以上から，課題研究の成果の検証結果として、特に論文において質の向上と，本校のＳＧＨにおける指導の進展がみられた。一方で、個人研究を新たに開始したばかりであり、課題を浮き彫りにしながら、改善のサイクルを継続することが大切である。

３年「思索と表現」レポート評価

１生徒氏名：

２評価：

		2019(%)	2018(%)
1(1)問題提起	Aレポートによって解決する問いが明確であり、その問いがどのような社会的意義もしくは学問的意義につながっているのかが明確に示されている。	45.2	23.7
	Bレポートによって解決する問いが明確である。	38.7	52.6
	Cレポートによって解決する問いが明確ではない。	0.0	13.2
1(2)研究内容と題目の一致	A研究内容を必要十分に要約した題目となっている。	64.5	21.1
	B研究内容を反映した題目であるが、実際の研究内容より広い（もしくは狭い）内容を指す題目となっている。	35.5	73.7
	C研究内容をほとんど反映しない題目となっている。	0.0	7.9
1(3)問いと研究手法の整合性	A研究方法が問いに対応し、問いの解決に部分的にでも寄与する研究手法を用いた。	51.6	36.8
	Bなし（または、不十分）	48.4	52.6
	C研究手法が問いに対応していない。	0.0	13.2
1(4)問いと結論の整合性	A結論が問いに対応し、問いに部分的にでも答えられている。	38.7	63.2
	Bなし（または、不十分）	61.3	28.9
	C結論が問いに対応していない。	0.0	10.5
1(5)研究手法と結論の整合性	A研究手法で分かったことから結論を導いている。	41.9	39.5
	Bなし（または、不十分）	58.1	57.9
	C研究手法で分かったことから関係のない結論を導いている。	0.0	5.3
2(1)データ	S結論を導き出すのに十分なデータを集めており、それらのデータが（量や質などで）顕著に優れている。	12.9	2.6
	A結論を導き出すのに必要十分なデータを集めている。	41.9	39.5
	B結論を暫定的にでも導くことができるデータを集めている。	45.2	50.0
	C結論を導くにいたるデータを集められていない。	0.0	10.5
2(2)分析・考察	S選択した研究手法に応じて、データ分析や考察が十分にできており、それらの分析や考察が顕著に優れている。	12.9	0.0
	A選択した研究手法に応じて、データ分析や考察が十分にできている。	38.7	44.7
	B選択した研究手法に応じて、データ分析や考察が部分的にできている。	48.4	44.7
	C選択した研究手法に応じて、データ分析や考察がなされていない。	0.0	13.2
2(3)参考文献	A参考文献や注が統一的に整えられている。（著者名などの順序、五十音順、注の頁数有無）	48.4	0.0
	B参考や注がつけられているが、部分的に軽微な不備がある。（参考にした情報源がわかる。）	51.6	94.7
	C参考文献の引用・参照方法に不備があり、他人の意見と本人の意見の区別がつきにくい　形で書かれている。	0.0	7.9
2(4)オリジナリティ	Aオリジナリティのある研究としてみとめられる。	35.5	23.7
	Bオリジナリティがある。	61.3	47.4
	Cオリジナリティはない。	3.2	18.4

所見	

２　成果の普及

１　ポスターセッションの開催

会場は、学校での開催を継続したが、参加人数の集中や参加者の適切な分散を図るため、会場レイアウトについて工夫改善した。これにより高層階での参加者の増加や、一部の会場への過剰な集中が解消し、昨年より適切な運営となった。保護者、行政関係者、研究機関、企業関係者等、多くの方に発表を聞いて評価コメントをいただくことができた。また、出雲高校の生徒を招き、研究ポスター発表を実施した。出雲高校のブースには、数多くの聴衆が集まり、本校生徒にとっても多いに刺激になったものと思われる。また、中学生の参加者もあり、昨年度よりも多くの参加者を集めることができた。

２　公開授業研究会等の開催

協同的・探究的な学びと内容言語統合型学習（ＣＬＩＬ的アプローチ）を中心に据え、ＳＧＨ成果発表会に併せた公開授業を実施し、必要な資質・能力を育成するための学習の実践を公開した。本校の取り組むＣＬＩＬ的アプローチの発展を目指し、教科の枠を超えた協同的・探究的学習の授業研究を行った。

３　地域の各種機関との連携

「思索と表現」におけるフィールドワーク等の活動において、鳥取大学をはじめとした地域の各種機関と連携した。特に、地域づくりを進める団体等の諸機関に出向いて発表し、高校生の考えに対して適切なフィードバックが得られたことは大きな成果であるといえる。これらの連携の輪を広げ、継続性のある連携へ発展させることが今後の課題である。

４　海外の教育機関との連携

アデレード大学研修では、従来から「社会の持続可能な発展」を焦点化しているなかでも、特にエネルギー問題に着目した研究を主題としてきた。しかし、テーマを絞ることにより新たな視点が得られにくくなっている問題を抱えていたため、ＳＤＧｓを手がかりとしたテーマ設定を生徒に求め、幅広い課題設定の基で研究を進めた。生徒は、日本国内の調査と海外での調査を比較・検討することができ、研究成果を全国高校生フォーラムや探究甲子園等で発表し、全国の高校生と情報交換することができた。

本年度は、春川高校への交流訪問が４年ぶりに実現し、交流の安定的な継続を図るよう努力した。校内における研究成果を春川高校の生徒・教職員と相互発表することによる効果は大きいものがある。

５　各種研究発表大会への参加

本校ＳＧＨ成果発表会（11 月）、全国高校生フォーラム（12 月）、探究甲子園（3 月）に加えて、京都大学ポスターセッションや観光甲子園、日本地理学会など積極的に研究発表大会に生徒が参加した。また、米子東高校と出雲高校との相互交流発表を継続・発展させることに成功した。校内予選会を開催し、積極的な参加者を募るなど、新しい方法を試行しているところである。

６　研究成果報告冊子の発行

１年間の研究成果をまとめた『研究開発実施報告書』『生徒成果物』、課題研究のために作成した『探究学習マニュアル』を発行し、県内外の学校、連携先の研究機関や企業などに配布した。また、研究過程や研究成果等を本校のホームページや学校誌に掲載し、情報公開や成果の普及に努めた。気候変動に関する研究を、レポートにまとめ、米国の研究者やインドの学校関係者との連携を継続している。日本語以外での情報発信を今後さらに進めることで海外への成果普及に繋げたい。

３　「探究学習マニュアル」の活用と普及　～教科や地域での相互作用を目指して～

企画部図書視聴覚係（鳥取西高等学校図書館）
司書主任　高橋和加

（１）概要

２０１６年春、ＳＧＨ事業（総合学習「思索と表現」）や図書館での授業で作成したワークシートを集積し、テキスト兼ノートとして冊子化した『探究学習マニュアル』を作成した。「探究学習とは何か」という導入に始まり、読むこと、考えること、問いや仮説を作ること、情報を記録して整理すること、表現することなど、「学び方を学ぶ」一連の手法を説明しており、言語活動や情報活用のための基本的なスキルが身に付く内容となっている。また、毎年４月に職員研修会を実施し、教諭が教科学習の中でも汎用的に使えるよう啓発活動を行っている。

実際に教諭が有効性を実感し、自分の担当する教科学習の中に取り入れたり、関連する教材を作ったり、探究学習自体を授業に取り入れたりしている事例も少なくない（地歴公民科、国語科、理科、英語科、家庭科など）。さらに、情報科「社会と情報」では毎年このテキストを活用した研究を行っており、生徒の情報活用スキルも定着してきている。

テキストがさまざまな教科に波及し、繰り返し探究学習が行われることにより、生徒の様子にも変化が見えるようになった。「読む」「考える」などの各段階で苦手意識が軽減し、「さらに深めてみよう」「多様な考えに触れてみよう」「表現活動にチャレンジしてみよう」という経験につながっている。

その他にも、県内外のＳＧＨ指定校へ情報を提供したり、教職員研修にて研修会を実施したりと、実践事例の普及に努めている。学びの手法が教科や地域を横断して実践され、相互的な効果が生まれるよう、これからも広く情報提供・情報交換していきたい。

（図１）探究学習マニュアル

「探究学習マニュアル」を活用した授業（情報科）

（２）主な普及活動

平成２７年度

●探究学習に関する校内教職員向け研修会を実施。県内他校からも参加者を募る（岩美高、米子東高、米子高、倉総産高、中央育英高、青翔開智高など９名参加）。

・「探究学習を進める手法」講師　玉川学園　登本洋子、伊藤史織氏（平成 28 年 2 月 19 日）

平成２８年度

●校内教職員向け探究学習研修会を実施。県内外他校からも参加者を募る。(県外は岡山県内高校から5名、県内は米子東高、倉吉東高、中央育英高、青翔開智高から8名が参加)。

・「２１スキルを育むための講師派遣事業　図書館を活用した探究的な学習」

講師：国士舘大学教授　桑田てるみ氏　（平成28年10月31日）

●学校図書館の視察を受け「探究学習マニュアル」と実践事例を紹介（岡山県内高校、立教大学、同志社大学)。

●研修会講師としてＳＧＨ事業での探究学習を紹介（市内中学校、県内図書館関係者)。

・鳥取市中学校司書研修会　（平成28年10月15日）

・第22回鳥取県図書館大会　（平成28年7月26日）

平成２９年度

●ＳＧＨ成果発表会にて公開授業（英語、現代社会）に関わり、探究学習を実践。

●県内外研究会（鳥取県高図研、三重県、岡山県、学図研全国大会）において「探究学習マニュアル」を活用した実践事例とワークショップを紹介。

岡山県学校司書研修会（平成29年7月26日）

学校図書館問題研究会第33回全国大会（平成29年8月9日）

三重県学校図書館協議会司書部研修会　（平成29年12月1日）

鳥取県図書館教育研究会東部支部第二回研修会　（平成29年12月12日）

●本校ＳＧＨ取組や図書館の視察にて「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介

（長崎県、和歌山県、岡山県、八頭高校、鳥取県図書館協会30名視察)。

平成３０年度

●ＳＧＨ成果発表会にて公開授業（日本史Ｂ）に関わり探究学習を実践。

●県外研究会（長野県、埼玉県、新潟県、福島県）において、「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介、ワークショップを実施。

・学校図書館問題研究会長野支部研修会講師　平成30年8月25日

・埼玉県高等学校図書館研究会夏季研究集会講師　平成30年8月24日

・新潟県高等学校図書館協議会図書館研究大会講師　平成30年7月27日

・福島県高等学校司書研修会県大会講師　平成30年7月26日

●本校ＳＧＨの取組の視察を受け、「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介。

（倉吉東高校）

令和元年度

●本校ＳＧＨ取組や図書館の視察にて「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介。

（鳥取県教育長、「学校図書館を考える会山口」代表、中四国高Ｐ連など）

●県内外研究会において、「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介、ワークショップを実施。

・東京都教職員研修センター「学校司書研修」講師（令和元年 8 月 21 日）
・宮崎県教育庁資質・能力育成研究会「探究学習研究部門」講師（令和元年 9 月 27 日）
・鳥取県高等学校図書館教育研究会秋季研修会講師（令和元年 11 月 22 日）

●書籍の中で「探究学習マニュアル」を活用した実践事例を紹介
・『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック実践編』（堀川照代／編著、悠光堂、2019 年、p. 79-83）

●ＳＧＨ成果発表会にて公開授業（日本史Ｂ、国語）に関わり探究学習を実践

４　海外研修参加生徒数、連携機関等

（１）令和元年度　海外研修・留学等参加生徒数一覧

研修名	国・地域	期間	生徒参加人数		
			１年生	２年生	３年生
鳥取県高校生理数課題研究等発表会 優秀者海外派遣	アメリカ合衆国	７日			２人
アデレード大学研修	オーストラリア	１１日	３人	５人	
韓国江原道との児童生徒交流派遣	大韓民国	４日	２人	４人	
バーモント州青少年交流事業	アメリカ合衆国	１２日	２人		
世界スカウトジャンボリー日本派遣団	アメリカ合衆国	１６日	１人	１人	１人
長期高校留学	アメリカ合衆国	１年間		１人	
長期高校留学	オーストラリア	２年間		１人	
長期高校留学	マレーシア	１年間	１人		
短期語学留学	米国、豪州	２週間	５人		
観光甲子園アウトバウンド部門	アメリカ合衆国	６日		２人	
国際生物学オリンピック	ハンガリー	８日			１人
グローバルリーダーズキャンパス スタンフォード大学受講者授賞式	アメリカ合衆国	４日		１人	
自主的に留学または海外に行く生徒数		**小計**	**１４人**	**１５人**	**４人**
		計	**３３人**		
（その他）　第２学年研修旅行	台湾	４日		２８３人	

自主的に留学または海外に行く生徒数が、急激に増加した。自主的に長期または短期の留学に参加した生徒が増えたことに加え、春川高校交流が実施されたこと、主体的に大会へ参加する生徒の増加が主因である。海外研修を紹介する説明会を実施するとともに、体験生徒、帰国生徒が海外体験の成果を還元する活動を主体的に行うなど、海外派遣の取組を活性化した結果、関心を持つ生徒や自主的に参加する生徒数が拡大している。

	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	**令和元年度**
ＳＧＨ対象生徒	３０人	２４人	５２人	１７人	**３３人**

（２）令和元年度　海外の連携大学・高校・機関等

名称	連携内容	名称	連携内容
アデレード大学 （SA オーストラリア）	海外派遣	江原道春川高等学校 （大韓民国）	海外交流
スタンフォード大学 （CA アメリカ合衆国）	ＳＧＨセミナー 生徒研究	Stephen Gaynor School （New York アメリカ合衆国）	生徒研究 （自然科学部）
Global Education Motivators (フィラデルフィア アメリカ合衆国)	生徒研究 （人文科学部）	Green School Alliance （ニューヨーク　アメリカ合衆国）	生徒研究 （人文科学部）
Climate Initiative （ニューヨーク　アメリカ合衆国）	生徒研究 （人文科学部）	Lyndon Institute (VT アメリカ合衆国)	生徒研究 （人文科学部）
Essex High School （VT アメリカ合衆国）	STEM 発表会 （生徒研究）	シカゴ大学 （IL アメリカ合衆国）	生徒研究 （自然科学部）
United Nations for Youth	生徒研究 （人文科学部）	Carrboro High School (NC アメリカ合衆国)	生徒研究 （人文科学部）
Pleasant Hill Elementary School (MS アメリカ合衆国)	生徒研究	Correndores de Conservacion de la Bioregion　(エクアドル)	生徒研究 （人文科学部）
Omega International School (チェンナイ　インド)	生徒研究 （人文科学部）		

	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	**令和元年度**
校数	１校	１校	５校	５校	**４校**

（３）令和元年度　日本国内の連携機関等

名称（大学等）	連携内容	名称（その他）	連携内容
鳥取大学	課題研究 ＳＧＨセミナー ＳＧＨ発表会 外国人教員による授業 生徒研究　など	智頭町コントリビューションの会	SGH セミナー
		JICA 中国	SGH セミナー
		UN Women Japan	SGH セミナー
		資生堂	SGH セミナー
公立鳥取環境大学	課題研究、ＳＧＨ発表会	青山学院女子短期大学	SGH セミナー
兵庫県立大学	生徒研究（自然科学部）	川崎医療福祉大学	SGH セミナー
宮崎大学	生徒研究（自然科学部）	株式会社シーセブンハヤブサ	課題研究
東京工業大学	生徒研究（自然科学部）	隼創生会	課題研究
近畿大学	生徒研究（自然科学部）	鳥取県立博物館	課題研究 生徒研究
東北大学	生徒研究（自然科学部）	公益財団法人武田科学振興財団	生徒研究 教材開発
富山大学	生徒研究（自然科学部）		
名称（高校等）	連携内容	鳥取市人権情報センター	課題研究
鳥取県立米子東高等学校	課題研究	鳥取県とっとり暮らし支援課	課題研究
島根県立出雲高等学校	課題研究	鳥取県産業技術センター	生徒研究
灘高等学校	観光甲子園	鳥取コミュニティシネマ	課題研究
金沢大学附属中学校・高等学校	観光甲子園	鳥取家守舎	課題研究
聖ウルスラ学院英智高等学校	観光甲子園	鳥取県立図書館	課題研究
法政大学国際高等学校	観光甲子園	鳥取県庁	課題研究
神戸大学附属中等教育学校	生徒研究	鳥取市役所	課題研究
広島県立安古市高等学校	生徒研究	ＡＣＣＵ（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター）	ユネスコスクール
岡山県立岡山一宮高等学校	ユネスコスクール	Japan Climate Initiative	生徒研究
岡山県立林野高等学校	ユネスコスクール	Climate Youth Japan	生徒研究
岡山龍谷高等学校	ユネスコスクール	鳥取県地球温暖化防止推進センター	生徒研究
おかやま山陽高等学校	ユネスコスクール	岡山学芸館高等学校	ユネスコスクール
清心中学校・清心女子高等学校	ユネスコスクール	岡山県美作高等学校	ユネスコスクール
岡山県立矢掛高等学校	ユネスコスクール	岡山白陵中学校・高等学校	ユネスコスクール
岡山県立真庭高等学校	ユネスコスクール		

（４）令和元年度　公的機関からの表彰、公益性の高い国内外における大会入賞者数および参加者数

全国大会等に参加する生徒数が急激に増加している。昨年度までに参加した大会に加えて、新たに参加した大会も増えている。要因としては、海外研修に参加したことにより英語で議論することへの意識が変わったことや、「思索と表現」で課題意識をもつことができたこと等が挙げられる。また、校内の教室での案内や掲示などを積極的に行い、広報活動に努めた。来年度以降も、これらの入賞者や各種大会参加者の経験を、授業や発表会、セミナーなどの機会を通じて還元するとともに、引き続き生徒の主体的な参加による活躍を期待したい。

本年度の主な表彰・入賞

・国際生物学オリンピック　ハンガリー大会出場（１人）
・全国高等学校グローバル観光コンテスト（観光甲子園）アウトバウンド部門　グランプリ（２人）
・第３９回全国高等学校ＩＴ簿記選手権大会　ＩＴ部門団体　第３位（５人）、個人戦　第４位
・第１１回全国高等学校情報処理選手権　情報処理部門団体戦　第５位（５人）、個人戦第３位
・バイオサミット in 鶴岡 2019　環境大臣賞（５人）
・日本地理学会秋季大会高校生ポスターセッション　理事長賞（１人）
・第１５回日本物理学会 Jr.セッション 2019　奨励賞（４人）
・第１４回科学地理オリンピック日本選手権兼第１７回国際地理オリンピック選抜大会　銅メダル（１人）
・グローバルリーダーズキャンパス優秀受講者受賞式（スタンフォード大学）（１人）
・第９回科学の甲子園鳥取県大会　総合優勝（８人）
・マリンチャレンジ中国四国大会　最優秀賞（５人）
・山陰海岸ジオパーク中高生政策提案・実践コンテスト　優秀賞（２人）
・第１４回全国金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）（２人）
・全国高等学校 MY PROJECT AWARD2019　全国サミット出場（１人）
・令和元年度鳥取県高校生理数課題研究等発表会　優秀賞（５人）
・第５８回全国高等学校生徒英作文コンテスト　入選（２人）　など

	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
ＳＧＨ対象生徒	３０人	３４人	４９人	３９人	５０人

本年度の主な大会・事業と参加者数

・国際生物学オリンピック　ハンガリー大会（１人）
・グローバルリーダーズキャンパス優秀受講者受賞式（１人）
・２０１９年度　スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）全国高校生フォーラム（２人）
・２０１９年度　WWＬ×ＳＧＨ探究甲子園（２０人）
・京都大学ポスターセッション２０１９（２人）
・国際地理オリンピック２０１９　　（３人）
・日本情報オリンピック２０１９　　（６人）
・日本数学オリンピック２０１９　　（１０人）
・日本生物学オリンピック２０１９　（６人）
・物理チャレンジ（国際物理オリンピック予選）（１人）
・日本地理学会ポスターセッション　（５人）
・日本動物学会ポスターセッション　（５人）
・マリンチャレンジ中国四国ブロック大会（５人）
・日本物理学会 Jr.セッション（４人）
・２０１９年度応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会ジュニアセッション　（４人）
・第３９回全国高等学校ＩＴ簿記選手権大会（５人）
・第１１回全国高等学校情報処理選手権（５人）
・第２５回スーパーコンピューティングコンテスト Super Con2019（３人）
・パソコン甲子園 2019（８人）
・鳥取県小中高生プログラミングコンテスト（１人）
・ジオパーク科学実験教室（４人）
・令和元年度鳥取県高校生理数課題研究等発表会（１２人）
・第９回科学の甲子園鳥取県大会（１６人）
・つくば Science Edge サイエンスアイデアコンテスト（３人）
・山陰海岸ジオパーク中高生政策提案・実践コンテスト（２人）
・全国高等学校 MY PROJECT AWARD2019　地域サミット（２人）
・全国高等学校グローバル観光コンテスト（観光甲子園）（７人）
・ＪＩＣＡ中国高校生体験プログラム（３人）
・岡山県高等学校ユネスコスクール交流会（２人）
・生徒のためのＳＤＧｓ実践報告会（７人）
・出雲高等学校ＳＳＨ研究成果発表会（５人）
・米子東高等学校ＳＳＨ研究成果発表会（３人）
・未来観光人材フォーラム（２人）
・Ocean's 47 地球こどもサミット（１人）
・発明楽コンテスト（６人）
・WWＦ未来とエネルギー（２１人）
・イオンワンパーセントクラブ　ティーンエイジアンバサダー（５人）
・グローバルリーダーズキャンパス（１２人）
・HONDA×リバネス 次世代水素教育プロジェクト水素エネルギー出前実験教室（３３人）
・鳥取県夢プロジェクト（３人）
・第１４回全国金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）鳥取県大会（６名）
・ジュニア郷土研究大会（１人）
・鳥取県バーモント州青少年交流事業（２人）
・鳥取県高校生英語弁論大会（２人）
・第５８回全国高等学校生徒英作文コンテスト（１０人）
・数学甲子園２０１９（第１２回全国数学選手権大会）（５人）
・UN WOMEN 第３回 ジェンダー平等に向けたプロジェクト（４人）

	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
ＳＧＨ対象生徒	５９人	６７人	１３８人	１３３人	２７６人

（５）ＧＴＥＣスコアの推移

過去３年間のＧＴＥＣスコアの推移　（R,L,W,S の４技能のスコア）

CEFR-J	SCORE	英語力プロフィール
B.2	1190~	大学での専門教育を英語で学べるレベル
B1	960~1189	海外進学を視野に入れることができるレベル
A2.2	810~959	海外の高校の授業に参加できるレベル
A2.1	690~809	海外ホームステイや語学研修で楽しめるレベル
A1.3	520~689	ＡＬＴと日常的な会話をし、英語体験を楽しめるレベル
A1.2	370~519	身近な表現で簡単なコミュニケーションができるレベル
A1.1	270~369	身近な単語や定型表現でコミュニケーションができるレベル
		ベネッセ資料より抜粋

現３年生

CEFR-J	SCORE	２年次（12 月）	３年次（6 月）
B.2	1190~	0	3
B1.2	1060~	8	20
B1.1	960~	33	52
A2.2	810~	139	112
A2.1	690~	79	37
A1.3	520~	7	6
A1.2 以下	370~	1	1
スコア平均（CEFR-J）		855.4　(A2.2)	904.1　(A2.2)

現２年生

CEFR-J	SCORE	１年次（12 月）	２年次（7 月）	２年次（12 月）
B.2	1190~	0	2	1
B1.2	1060~	1	11	19
B1.1	960~	11	23	43
A2.2	810~	146	151	174
A2.1	690~	110	75	38
A1.3	520~	6	2	3
A1.2 以下	370~	0	0	0
スコア平均（CEFR-J）		828.0 (A2.2)	864.1 (A2.2)	902.8 (A2.2)

現１年生

CEFR-J	SCORE	１年次（12 月）
B.2	1190~	0
B1.2	1060~	1
B1.1	960~	11
A2.2	810~	156
A2.1	690~	99
A1.3	520~	6
A1.2 以下	370~	0
スコア平均（CEFR-J）		831.1　(A2.2)

学年によって多少の違いはあるものの、全学年で順調にスコアが伸びており、英語学習の成果が見られる。本校では 3 年次における GTEC のスコア目標を(CEFR-J)A2.2（810 以上）に設定しているが、基準点を大きく上回り達成することができた。どの学年も前年度の同じ学年の平均点を上回っており、昨年度から受検している Speaking の分野別スコアも全学年 A2.2 に達している。これらの結果から、普段の英語の授業が英語で行われていることや、全学年で定期的にパフォーマンステストやプレゼンテーションを実施していることなどが功を奏していると考えられる。ティームティーチングの授業においても、二名の ALT が積極的に生徒の発話を促したり、英語で話す機会を与えたりして、英語を話すことに対する抵抗感が少ない雰囲気ができている。今後も 4 技能をバランスよく伸ばす指導・授業の研究を継続していきたい。

第４章　関係資料

１　鳥取県グローバルリーダー育成事業運営指導委員会

令和元年度鳥取県グローバルリーダー育成事業運営指導委員会（第１回）

日　時　　令和元年７月８日（月）　午前１０時～正午まで

場　所　　日本セラミック本社会議室

概　要　　日本セラミック社内見学

管理機関挨拶

学校長挨拶

鳥取県グローバルリーダー育成事業の趣旨等について

平成 27 年度 SGH 指定校（スーパーグローバルハイスクール）としての成果と課題について

協議　・協同的・探究的な学びの現況と今後の見通しについて

・成果普及のための具体的な方策について

・指定期間終了後に向けた提言等

出席者　　公立鳥取環境大学　今井　正和

日本セラミック株式会社　谷口　真一

ＪＩＣＡ中国国際センター　溝江　恵子

智頭町コントリビューションの会　米本　ゆかり

ＪＩＣＡ鳥取デスク　森木由加里

高等学校課　福島卓也

鳥取西高校　山本英樹・山口宏志・中村秀司・坪倉潤也

【委員会での主な意見】

・経験・体験することが大切であり、失敗してもやってみるという取り組みが評価できる。

・全校生徒を対象にした内容は先見の明があった。このまま継続していくべきである。

・今後の普及方法として、パートナーとなるいくつかの学校が集まって競ったりすることで見つかることもある。

・地域貢献に関わることなどを生徒が自治体などに提案する取り組みがよいのではないか。

・探究学習マニュアルを県内の学校などに使ってもらい、実際の生徒のニーズをつかんでいきつつ改訂し、全国版にしていくというプロセスを踏んではどうか。

令和元年度鳥取県グローバルリーダー育成事業運営指導委員会（第２回）

日　時　　令和元年１１月８日（金）　午後３時５０分～午後４時２０分まで

場　所　　鳥取西高等学校応接室

概　要　　管理機関挨拶

学校長挨拶

令和元年度の SGH 指定校としての取組について報告

協議　・平成２７年度 SGH 指定校として取り組んできたことの成果について

・指定期間終了後の事業成果の普及還元について

出席者　　日本セラミック株式会社　福井孝志（谷口社長の代理）
ＪＩＣＡ中国　溝江恵子
智頭町コントリビューションの会　米本ゆかり
高等学校課　福島卓也
鳥取西高校　山本英樹・山口宏志・辻中孝彦・中村秀司・坪倉潤也

【委員会での主な意見】

・他校との交流、海外との交流の取り組みには賛成だが、短期間が多い。ある程度の時間を過ごすことで見えてくることもあるのではないか。
・５年間で生徒の主体性が進んだが、教員のモチベーション向上が影響したのではないか。
・学力だけでなく、困っている人を何とかしたいという心が育って行かないといけない。本質は、人の役に立ちたい、助けたいという心が育つことであり、西高生にはそういうことを発信していってほしい。今もそういう取り組みをできていて、グローバル化されていると感じる。
・世の中の出来事を深く知ることで、その状況にいる人に寄り添う「共感力」が育っていく。
・教育委員会には、ノウハウがわからない学校と鳥取西高をつないで、知見を役に立ててほしい。
・日ごろは日本の学校は同調圧力が高くて少々窮屈と思っているが、本日の発表はのびのびとしていて、多様性や個性を認め合う校風が好ましく感じた。

２　新聞記事

2019.7.3（水）　日本海　23 面

「取材楽しみ優勝を」

「観光甲子園」来年１月決勝

鳥取西高の２人意欲

ハワイ島観光現地取材の計画書を手に、観光甲子園決勝に臨む木村さん（左）と村岡さん＝1日、鳥取市栗町2丁目の鳥取西高

高校生が観光プランと観光動画の出来栄えを競う「全国高等学校グローバル観光コンテスト2019（観光甲子園）」の海外部門決勝大会に、鳥取西高の生徒2人が初出場する。全国103組から5組が決勝に進み、ハワイを舞台にした旅行計画書を基に5月に現地取材し動画を制作。同校は体当たりのリポートで来年1月の決勝大会優勝を目指す。（山根由梨）

観光甲子園は一般社団法人「NEXT TOURISM」（神戸市）が主催。国内と海外の2部門で課題を解決する観光計画を立て、PR動画を作る。海外部門はハワイ島の魅力を高校生視点で考え提案する。

出場するのは同校2年生の木村理愛さん（16）と村岡優衣さん（16）。話し合いを重ね、ハワイ島先住民の伝統生活空間「アフプアア」の魅力発信にテーマを絞り、約1カ月半かけて計画書を完成させた。

「予備知識も無く分からないことだらけだったけど、学んでいくと今と昔のハワイ島の関連性が分かってきた」と木村さん。「初めさんは「ハワイ島の魅力は歴史や伝統だと思うけど、きれいな砂浜の写真撮影など若者が楽しんでいることも含めていない気がして悩んだ」と計画の方向性を決めるまでの苦労も語った。

校内でアンケートするなど試行錯誤し、伝統文化の発信とハワイへの若者の期待を融合させた計画書は見事予選を突破。決勝に向けて2人は「楽しみながら良い動画を撮って優勝を目指したい」と意気込む。

鳥取西高「国内」も決勝へ

魅力満載のツアー計画　ダブル優勝目指す

観光甲子園

観光動画の最後を締めくくる「わったいな！」のポーズをする出場生徒5人
28日、鳥取市東町2丁目の鳥取西高

高校生が観光プランと観光動画の出来栄えを競う「全国高等学校グローバル観光コンテスト2019（観光甲子園）」の国内部門決勝大会に、鳥取西高の生徒5人が初出場する。鳥取を売り込む観光動画を制作し、来年1月の決勝大会に臨む。同校は海外部門でも生徒2人の決勝進出が決まっており、国内と国外のダブル優勝を目指す。

観光甲子園は「NEXT TOURISM」（神戸市）が主催。国内部門は地元を舞台に訪日観光者向けの滞在型観光プランを提案し、動画を制作。全国215組のうち予選通過の50組が決勝に出場する。

5人はいずれも2年の小林若菜さん（16）、長岡希さん（16）、大宮夏希さん（17）、田中明乃さん（16）、美野れお菜さん（17）で、「わったいな！真の鳥取みせたるで！」と題し、県東部を巡る2日間のツアーを計画。国内外のライターが訪れる八頭町若桜鉄道の隼駅などで開かれる「隼駅まつり」を中心に、山陰海岸ジオパークの自然体験、工芸体験や天体観測など鳥取の魅力が詰まったプランを立てた。

決勝大会に向けて5人は「目標はあるので、私たちの熱意が伝わって少しでも鳥取に行きたいと思ってもらえるものを作りたい」と意気込む。（山塚由梨）

2019.7.30（火）　日本海　１面

生徒の視野 世界へ

鳥取西高、ＳＧＨ最終年度

文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）に指定され、世界と地域に目を向けた課題研究や海外研修などを進めてきた鳥取西高（鳥取市）。指定最終年度を迎え、どのような変化が生まれているのか。同校の調査によると情報活用能力などがアップし、世界に視野を広げる生徒が増加。課題研究や授業に取り組む生徒の姿勢にも変化が見えるという。

８人程度の班で課題研究に取り組む「思索と表現」のポスターセッション＝７月中旬、鳥取市栄町２丁目の鳥取西高

研究や授業、意欲的に

「再生可能エネルギー、外国人労働者が住みやすい街づくり」。７月中旬、「グローバル化の中の地域創生」と題した課題研究「思索と表現」のポスターセッションには、１００を超える多種多様なテーマが並んだ。

海外と日本を比較し国際交流について英語で発表する班。「ヒーローによる地域活性を図げ、実際にマーケティングやデザイン、製作を行った班も。生徒は自分の発表以外の時間は興味のあるテーマを聞いて回り、内容や伝え方を評価した。

（24面に続く）

2019.7.30(火)　日本海　24 面

SGH鳥取西高

情報分析力など上昇

生徒に教育の〝栄養〟付く

（1面から続く）

社会で役立つ

課題研究で生徒は、やりたいテーマで5人程度の班をつくり、現地調査やインタビューなども交えて進める。地元企業や関係機関の協力を得るケースもある。

火力発電の排出CO2を活用するビジネスモデルを考えた椎木亨さん（3）は「プランにもっと具体性を持たせたかったが、外部の協力も仰ぎながら自分たちの力で進められた。改善点を見つける作業は社会に出た時に役立つと思う」と手応えを口にした。

同校は2015年度から「地域・国際」とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成」を構想に鳥取県で初めてSGHに指定。「思考と表現」や協同的学習、英語をツールに他教科を学ぶ「CLIL（クリル）」、オーストラリアのアデレード大との交流などを展開してきた。

一人一人違う視点

辻中孝彦教頭は「4、5年前からかなり変容した。生徒に教育の〝栄養〟が付いてきた」と実感する。

課題研究に関する生徒や教員のアンケートによると、高いレベルで情報を整理・分析できたとする3年生は、13年度入学生が44%だったのに対し16年度入学生は70%に上昇。修正点を見つけてより良く進められたかどうかの項目でも、46%から76%となった。

「一人一人違う視点で解決策が見られる」と辻中教頭。授業でも意見交換やコミュニケーションを取る機会が多く「他人の意見も取り入れる。それが相乗効果を生んでいるのでは」。海外研修の報告会に仲の教育もの人数が集まるなど、世界に目を向ける生徒も確実に増えている。

本年度でSGH指定は終了するが同校は内容を継続するとの方針。「世界を視野に入れながら、さまざまなコミュニティーで活躍できる人材を育てるのが狙い。生徒の可能性を伸ばしたいとのこと。（沖辺陽子）

SGHの取り組みを通、世界に目を向ける生徒が増えた＝7月中旬、鳥取市東町2丁目の鳥取西高

2019.10.19（土）　日本海　23 面

学校生活だけじゃない!!

学外活動の成果披露

鳥取県東部の高校生13組　あす、海外留学や郷土研究

イベントに向けて準備を進める田口さん（中央）ら実行委員会のメンバー＝鳥取市国府町新通り8丁目の青翔開智高

学校生活の枠にとどまらず国内外で特色ある活動を展開する鳥取県内の現役高校生が、自らの体験や学外活動の魅力を中高生や一般の人に紹介する催しを20日、鳥取市内で開く。企画、運営、出展の全てを高校生が担い、各ブースで海外留学や郷土研究など活動の成果を披露。高校進学を控える中学生らに「多様な高校生活を知ってもらい、進路選択の参考にしてほしい」と意気込む。（野木絢）

発起人は青翔開智高2年の田口春生さん（17）。学外活動で活躍する周囲の友人を見るうちに、夢や目標を達成するには学校生活以外の取り組みも重要だと知った。ただ、「今の中高生には見つける機会も、それを発表し共有する場も少ない」と感じ、今回のイベントを企画。今年の夏休みにガーナに留学し、体験報告会を開いたことも気持ちを後押しした。

「自分よりもっと面白いぶっ飛んだ高校生を集めて活躍を伝えたい」。中学時代の友人に声を掛けて実行委員会を結成。学校の垣根を超え、鳥取西や鳥取城北など県東部6校の13組の高校生が集まった。

郷土の地理や歴史を研究する西脇考之佑さん（18）＝鳥取西高2年＝は「高校生でも深くて面白い研究ができる。鳥取の魅力を発信したい」と意気込む。田中真人さん（17）＝青翔開智高2年＝は、イベント内でコンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」の体験会を計画。「将来五輪競技に採用されるかもしれない。eスポーツを知らない人に面白さを味わってほしい」と力を込める。

日本青年会議所の少年少女国連大使の活動や留学体験談の発表、高校生漫才を披露する高校生もいる。

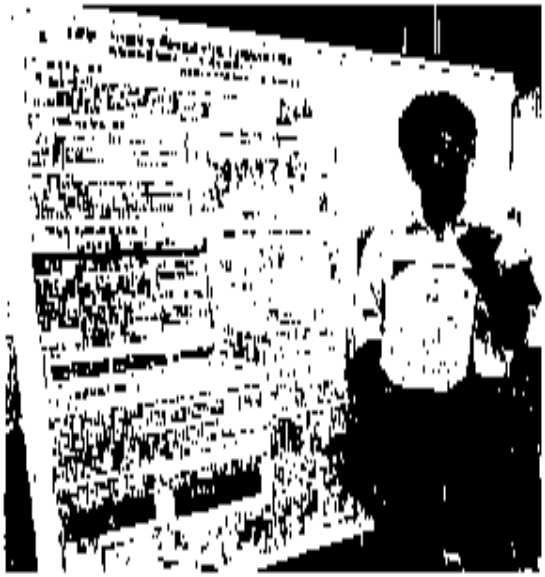
田口さんは「高校生の生の声を聞き、自分でもできるんだ、やってみようと思ってもらえたら。出展者同士も交流し、活動を高める機会にしたい」と話す。

「High School Life EXPO」は20日午後1時から、鳥取市のとりぎん文化会館で。

2019.10.31（木）　日本海　25 面

西脇さん（鳥取）理事長賞

県中部のバス路線 重要性と展望は



日本地理学会学術大会

平成２７年度指定　スーパーグローバルハイスクール
研究開発実施報告書（継続５年次）

2020 年２月２９日発行
編集・発行　鳥取県立鳥取西高等学校　企画部
印刷・製本　中央印刷株式会社
鳥取県鳥取市南栄町 34 番地